

【 合宿前と合宿後の比較 】

10月末に北海道室蘭市にて第12回全日本ろう者サッカー選手権大会が開催されました。室蘭地区サッカー協会の長谷川会長や協会役員の方々をはじめ北海道ろう者サッカー協会の皆様の全面的なバックアップがありました。会場はジーコが公式戦で来日初ゴールを決めた場所、ボールはJリーグ公式球、ボールボーイや審判員には室蘭地区選抜選手（北海道大会0-40,50,60全てのカテゴリーを制覇し全国大会出場）の方々と、サッカーの町と感じるいい雰囲気の中で行われました。新聞にも試合結果が掲載され地元の方々の観戦もあり注目をされた大会でもありました。試合結果は久住呂監督率いる東日本が3大会ぶりに優勝、準優勝に西日本、3位北海道、4位九州でした。大会最優秀選手に「綿貫」決勝戦での決定力は圧巻、優秀選手に「大西」「穂田」縦への突破が魅力、「船越」次を予測した動き、「江島」チームの為に走る、の4名が選ばれました。30以上の選手が選ばれましたがサッカーで重要なのは質であり年齢ではありません。この大会の1週間前に各地域の協力がありましてイラン大会に向けた最終強化合宿をJ-Green堺で行い宿題を2つ出しました。宿題を意識してプレーしているかも考えながら全試合を観戦させて頂きました。イメージの共有とチームの為に走る視点からみていいプレー2つがありました。1つ目は「設楽」がボールを受け前を向く、「松本」が絶妙のタイミングで左サイドのスペースに飛び出しパスを受け強烈なシュートを放つがGK「菱岡」のすばらしいセービングでボールを弾かれる。そこにつめていた「綿貫」がこぼれ球をゴールに押し込む。このゴールの前に「江島」のすばらしい走りがありました。それは「松本」が走り出した時点で「江島」が次を予測してハーフウェーライン付近からゴール前に50mほどダッシュで走りこんでいく。DF2人とも「江島」へ意識がいきファーサイドにスペースができる。それに気付いた「綿貫」が後ろからそのスペースにボールがくるのを予測し走りこみこぼれ球をシュート！ただゴール前で待っていたのではなく、チャンスを感じたこの二人のチームの為に走りがゴールにつながりました。この二人の走りがなければGKが弾いたボールは簡単にDFにクリアされていたことでしょう。2つ目は左サイド寄り「設楽」がボールを受け右サイドを確認すると「毛塚」が右サイドにできているスペースに全力で走り出している。走りながら次のプレーの選択を考えまわりをみている時にゴール前にいる「綿貫」が相手DFの意識がボールにいった瞬間にDFの死角にはいりマークをはずす。二人のイメージが共有され「綿貫」がとびだすタイミングにワンタッチでクロスをあげドンピシャ！相手のみえないスペースを気付かれる前に早い判断で使った完璧なプレーでした。2つのプレーとも守備から攻撃への切替がはやい「設楽」が起点となっております。イラン出発まであと1週間、宿題を忘れないよう高い意識を持って残りの日々を過ごしてください。